

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2870700420		
法人名	社旗福祉法人きたはりま福祉会		
事業所名	フレール離宮西町		
所在地	神戸市須磨区離宮西町2丁目2-3 (電話)078-731-4164		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年4月13日

【情報提供票より】(20年2月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	12人
職員数	11人	常勤	9人, 非常勤 1人, 常勤換算 2.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4階建ての3~4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,933円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(29,799円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150円	昼食	330円
	夕食	330円	おやつ	60円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	12名	男性	名	女性	12名
要介護1	2	要介護2		4	
要介護3	2	要介護4		2	
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 87.6歳	最低	73.3歳	最高	99.9歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村海浜病院
---------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

急坂の幹線道路に面した、市営住宅型のグループホームである。近隣に離宮公園があり、緑に恵まれ1年を通して窓からの景観が楽しめる。ホーム内は、共用空間も居室もゆったりとしたスペースが確保され、ご利用者が各自のペースで穏やかに過ごされている。ホーム便り・管理者とのメール交換・家族会の後のご家族同行の外出・外食など、ご家族との連携を重視している。各種委員会の設置・職員が設定した個人目標に向けての支援など職員育成にも力を注いでいる。立地条件・人員体制などの制約の中で、管理者と職員の熱意と努力・ご家族の協力で補いながら、ご利用者のその人らしい生活を自立支援し、さらなるサービスの質の向上を目指して取組まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果は職員に回覧し、カンファレンスで話し合い、優先順位をつけて、改善に取組んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価表は職員に配布し、一人ひとりが記入し、主任がまとめて仕上げた。全職員で取り組むことで、評価の意義を理解し、評価を振り返り・見直しの機会としてサービスの質の確保に活かせるように取組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は、ご家族・地域住民(婦人会・民生委員)・安心すこやかセンター職員・知見者などが参加し、2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームの状況報告をしたり、地域での役割などについて話し合い、さらなるサービスの向上に活かせるように取組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	ご家族の面会が多いため、面会時に意見等を話しやすい雰囲気作りに努めている。運営推進会議や年2回の家族会でも、ご家族の意見を積極的に聴取している。家族会の後にご利用者・ご家族と共に外出行事を行い、和やかな雰囲気の中ご家族からの率直な意見が聞ける機会となっている。管理者のメールアドレスを公表し、個別に綿密な対応ができるよう取組んでいる。出された意見・要望などは、回覧・申し送り、職員全員で共有し、対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地元自治体主催の盆踊り・とんど、小学校の運動会・音楽会等に積極的に参加している。施設の夏祭りには、地域住民を招待したり、ボランティアの協力を得ている。日常の外出の際に立ち寄り、地域の商店街で買い物をしたりするなど、地域での理解を深めてもらえるよう努めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域住民との交流の下で「職員及び家族、地域住民が入居したい施設」づくりを目指しているが、事業所の基本理念としての明示には至っていない。		事業所が目指すサービスのあり方を端的に示すために、事業所として理念を明示することが必要であり、地域密着型サービスとしてのグループホームの役割を目指した「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という考えを、理念に盛り込み、明文化されることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンスで、目指すサービスのあり方について話し合い、実践に向け日々取り組んでいる。		職員全員が理念を共有し実践に向けて取組めるように、目指すサービスのあり方を「理念」として明文化し、ホーム内に掲示したり、研修会・ミーティングなどで理念に立ち返って話し合う機会を持つことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治体主催の盆踊り・とんど、小学校の運動会・音楽会等に積極的に参加している。施設の夏祭りには、地域住民を招待したり、ボランティアの協力を得ている。日常の外出の際に立ち寄りたり、地域の商店街で買い物をするなど、地域での理解を深めてもらえるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は職員に回覧し、優先順位をつけ、改善に取組んだ。今回の自己評価票は職員に配布し、一人ひとりが記入し、主任がまとめて仕上げた。全職員で取り組むことで、評価の意義を理解し、評価を振り返り・見直しの機会としてサービスの質の確保に活かせるように取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、ご家族・地域住民（婦人会・民生委員）・安心すこやかセンター職員・知見者などが参加し、2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームの状況報告をしたり、地域での役割などについて話し合い、さらなるサービスの向上に活かせるように取り組んでいる。。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>同敷地内に法人管理と市の所轄が混在しているため、高齢福祉課とは定期的に連絡を取り合い、業務の円滑化を図っている。</p>		<p>市との協働関係をさらに深めることで、サービスの質の向上に繋げることを期待する。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な報告として、月に1回ホーム便りを発行している。表面はホームの共通部分でホーム全体の報告を行い、裏面はご利用者一人ひとりについて担当者による個別の報告を行なっている。随時の報告・連絡は、ご家族の面会が多く、その都度行なっている。電話・メールも利用し、きめ細かい連絡に努めている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会が多く、面会時に意見等を話しやすい雰囲気作りに努めている。運営推進会議や年2回の家族会でも、ご家族の意見を積極的に聴取している。家族会の後にご利用者・ご家族と共に外出行事を行い、和やかな雰囲気の中ご家族からの率直な意見が聞ける機会となっている。管理者のメールアドレスを公表し、個別に綿密な対応ができるよう取り組んでいる。出された意見・要望などは、回覧・申し送り、職員全員で共有し、対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ご利用者と職員との馴染みの関係を重視し、異動は最小限に抑えている。離職については、ご利用者・ご家族に対する弊害を十分理解し、管理職が職員とのコミュニケーションを重視し、ストレス・不安の軽減を図り離職を防ぐ努力をしている。</p>		<p>今後も、離職を防ぐため、職員のストレス・不安を軽減し、モチベーションが継続できるような取り組みの継続を期待する。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考査制度を導入し、職員の自己目標の設定により、意欲の向上を目指している。リスク管理委員会・感染症委員会・身体拘束委員会を設置し、各委員を中心に伝達研修を実施している。また、各職員の段階に応じた外部研修の受講を支援している。</p>		<p>年間計画に基づいた、定期的な内部研修を企画中であり、その実施と継続が期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護サービス事業所連絡会には参加しているが、グループホーム同士の交流は希薄である。施設長間・職員間の個人レベルでの交流・情報交換は行っている。</p>		<p>グループホーム間のネットワーク作り、管理者・職員の相互訪問・勉強会の参加などにより、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に活かされることを期待する。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご利用者・ご家族との面接の際、生活歴・生活習慣などを詳細にアセスメントし、これまでの生活を基本に対応できるように取り組んでいる。入居後は、ご利用者のペースを重視し、ご家族や友人などの協力を得て、少しずつ馴染みの関係が構築できるように配慮している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のコミュニケーションを大切に、喜怒哀楽を共有しながら、ご利用者一人ひとりの意向を尊重し、自然な流れで協働関係が築けるように取り組んでいる。ご利用者と職員・ご利用者同士の協働作業の中で、お互いに学び、支え合う場面が多く見られる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のご利用者・ご家族との面談の際聴取した思い・意向を入居前面接票に記録し職員で共有している。入居後の日々の会話の中で各職員が把握した思い・意向などについては、その都度「気付きメモ」に記入し集積した上で、担当者が整理しミーティングで検討したり、ケアプランに反映させている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時にご利用者・ご家族にアセスメントを実施し、入居前面接票・ケアチェック表を作成し、職員・計画作成責任者・管理者がカンファレンスを開き、ご利用者・ご家族の希望・意向に基づいた介護計画を作成している。ご家族が訪問された時、介護計画を説明し、同意を得ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>体調の変化・要望の変化など見直しの必要が発生した場合は、随時見直しを行っている。安定しているご利用者については、6ヶ月に1回定期的な見直しを行っている。また、全入居者に対して月末にケアプランと照らし合わせた月間のまとめを行っている。日々の暮らしの中で職員が気付いた情報をメモ書きしてご利用者ごとに集積し、介護計画の見直しの際、検討材料とし介護計画に反映している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を導入し、疾病の早期発見による入院の回避、早期退院の支援、重度化した場合や終末期の入院の回避に努めている。かかりつけ医への受診・個別の外出にはご家族が同行されることが多いが、状況に応じて職員が同行支援する場合もある。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携医による、週1回の内科・月2回の眼科・随時の歯科の往診・看護師の巡回派遣が実施され、健康管理・病気の早期発見・予防に努めている。希望があればかかりつけ医への受診同行・情報交換・ご家族への報告などの支援を行ない、かかりつけ医の受診支援を行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制を導入し、重度化・終末期についてのホームの方針を明文化し、入居時にご利用者・ご家族に説明し、同意を得ている。現在は対象になるご利用者がいないが、ご利用者・ご家族の意向の把握、ホームの対応、職員教育等、検討中である。</p>		<p>重度化・終末期を迎える事態に備え、職員がホームの方針を理解し共有し、不安なく介護に当たれるように、定期的に研修されることが期待される。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーポリシー・個人情報保護については入職時に説明し、守秘義務について誓約書を交わしている。待遇・羞恥心への配慮など尊厳の尊重については日々のケアの中で、管理職が職員への意識付けを行なっている。</p>		<p>プライバシーの確保と尊重について、全職員が共通認識を持ち、常に意識付けができるように、定期的に研修を行い再確認を継続することが期待される。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居時にご利用者・ご家族から生活歴・生活習慣をアセスメントし、入居後も日々の生活の中からの気付きを集積し、その人らしい暮らし方が把握できるように努めている。基本的な1日の流れはあるが、ご利用者がその日の体調・気分に応じた過ごし方ができるように、職員がサポートする形で支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご飯とお味噌汁はホームで作り、おかずは調理済みの状態で委託業者から搬入される。配膳・後片付けはご利用者のできる範囲で協働して行っている。職員も同じ食卓で同じものを食し、話しかけながら家庭的な雰囲気大切にしている。食事介助・サポートが必要なご利用者には、一人ひとりのペースに合わせて、適宜実施している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>どちらかのユニットで毎日入浴できるように2ユニット間で調整している。気の合った人同士で入浴したり、対応可能な限り希望に応じて入浴できるように配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメント・入居後の情報収集により、ご利用者一人ひとりの生活習慣や生活歴を把握し、家事・趣味の場面で、その人に応じた役割・楽しみごとの場面作りができるように、ケアプランに組み込みながら支援している。ホームの行事や家族会をかねたご家族との1日旅行など、定期的に大きな楽しみごとが提供できるように取組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	交通量の多い国道に隣接し、坂の多い立地条件・人員体制などにより、日常的で気軽な外出が困難な状況である。職員は外出の重要性を認識し、近隣の公園への散歩・車での買い物など現状でできる限り外出支援できるように、工夫している。		運営推進会議・家族会などで話し合い、ご家族・地域のボランティアなどの協力を得て、日常的な外出の機会が多く提供できる取り組みを期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	空間拘束の弊害を認識し、日中はユニットの玄関・エレベーターを施錠していない。安全確保のため、玄関センターで人の出入りを把握し、外出の希望を察知し対応している。ベランダも施錠せず、各居室から自由に出入りでき、洗濯物を干したり、花の手入れができるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急災害時に備えて、1年に2回、ご利用者も参加して避難訓練を実施している。		運営推進会議で緊急災害時の協力体制について話し合い、地域との連携がとれるように取組まれることが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る</p>	<p>食事の委託業者により、栄養バランス・カロ リー摂取が確保されている。食事摂取量は記 録し、水分摂取量は医師の指示や観察の必要 のあるご利用者については記録を残してい る。個々のご利用者の状況に応じて、食事形 態を工夫したり、食事介助を行なうなど個別 の支援を行なっている。</p>		<p>体調が安定しているご利用者についても、 予防的な意味で水分摂取量を記録しておく ことが望まれる。</p>
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>採光に恵まれた、ゆったりとした共用空間に は、多数でくつろげるテーブル・少数で過 せる長いす・畳のコーナーなど、ご利用者が 思い思いに過ごせる環境づくりに努めてい る。季節が感じられる手作りの装飾品や写真 を適度に飾り、家庭的な雰囲気作りに取り 組んでいる。また、採光・温度・音などにも 気を配り、五感的にも快適に暮らせるよう に配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者 や家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのものを活かして、居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は、洗面所とトイレの設置があり、畳 とフローリングの、ベランダに通じる造り になっている。使い慣れた馴染みの家具・装 飾品などを持ち込み、自宅との環境の違い によるダメージを軽減し、その人らしい生 活が継続できるように取り組んでいる。</p>		

 は、重点項目。